

2019年(平成31年)2月1日 金 曜 日

11 地元経済

第3種郵便物認可



スタートしてほぼ3年が経過した京都府事業引継ぎ支援センター。3月には商工会議所と一緒に新しくできた京都経済センターへ移転する。ますます事業承継、事業引継ぎの中心的な役割を期待されていることをひしひしと実感する。

足掛け3年間で30件以上の案件をなんとか周囲のご協力で完了させてきた。既に一番最初に関わった案件では、引継ぎ後2年以上が経過してい

事業継承後のPMIに留意

中小企業診断士

成岡 秀夫



る。本当にその後順調に事業が回っているのだろうか、いつも気になっている。ご子息に承継した案件でも、従業

員が引き継いだお店でも、第三者へ譲渡した企業でも、本当にいまうまく事業が運営されているだろうか、気がかりだ。

PMIという言葉がある。Post Merger Integration(ポスト・マージャー・インテグレーション)の略で、M&A(企業の合併・買収)成立後の統合プロセスのことを指す。我々が担当する現場では、M&Aに関わらず承継後、引継ぎ後も含んで新しい統合後の組織がうまく運営できているかどうかの意味で使っている。

この統合後の運営がうまくいくかどうか、承継、引継ぎ、M&Aの成否を分ける。同族一族だからといって安泰ではない。誰もが認める一族への承継でないと、承継後そ

れまで以上に会社を新組織で成長させることは難しい。特に創業カリスマ経営者のあとは、周到に準備をしておかないといけない。経営の段差を生んではいけない。

一族であっても承継後は特に謙虚を心掛け努力を怠らない。そういう姿勢が周囲の共感を呼び、社内外に連携協力のネットワークが出来上がる。承継の前から、PMIを意識して次世代での成長イメージを描いておくことが大切だ。理想としてそのイメージは、次世代を背負う幹部と後継者が一緒に作り上げることだ。